

| | | | |
|-------------------|---|--------------|--|
| 中長期目標 (学校ビジョン) | (1)道徳教育の充実 ・高校生として望ましい規範意識、生活習慣を確立する。 ・自己肯定感を高めるとともに、他者に対する思いやりなど、周囲と豊かな人間関係を構築することのできる豊かな心を育む。 (2)キャリア教育の充実 ・社会的問題に関心を持ち、社会の一員であることを自覚させる。 ・探究活動をおとして、社会的問題の解決に向けて必要となる能力を育成する。 ・将来の生き方を前提とした進路指導を展開する。 (3)高い志を有し、学ぶ意欲を向上 ・将来の生き方を考えさせることで主体的に学ぶ姿勢を涵養するとともに、社会問題の解決に向けて必要となる確かな学力を育成する。 ・授業をおとして論理的思考力、表現力、コミュニケーション能力を高める。 | 今年度の 重点目標 | (1)将来を見越した生活習慣の確立 (2)キャリア教育の充実 (3)主体的な学習姿勢の構築、及び学力の向上 (4)情報収集、情報発信の充実 |
|-------------------|---|--------------|--|

| | | 年度当初 | | | 評価結果 ()月 | | |
|--------------------------|--|--|---|--|-----------|----|------|
| 評価項目 | 評価の具体項目 | 現状 | 目標(年度末の目指す姿) | 目標達成のための方策 | 経過・達成状況 | 評価 | 改善方策 |
| 将来を見越した生活習慣の確立 | ①社会や人とのつながりを意識した生活習慣を身につける | 【生活支援】 ・全般的に挨拶はよくできている。きちんと立ち止まってる挨拶は、外部からも好評である。 ・授業や集会での聴く姿勢はよい。講演を受けての質問等の場面で積極的な姿勢に乏しい。 ・自分の置かれている状況や立場を考えて行動できない場面がある。 | ・自然に自分からさわやかな挨拶ができる。 ・授業や集会などで顔を上げて、きちんと話を聴くことができることも、積極的に自ら発言をすることができる。 ・TPOを意識した行動をとることができる。 ☆日常的な生徒観察により評価する ☆は評価の方法(以下同じ) | ・積極的、意欲的な行動や姿勢をとった生徒を褒めて育てる。 ・生徒会を中心に、生徒同士で挨拶をかわす機会をより増やす。挨拶することの意味等をHR等で繰り返し話して指導する。 ・授業も含め日常的に発言できるように、生徒が発表する機会を多く設定する。 ・生徒会活動を通して、生徒が責任をもって主体的に取り組むことに喜びや達成感をもてるよう指導する。 | | | |
| | ②講演会等を通して人としての生き方を学ぶ | 【S1】 ・高校3年間で何を学び、将来どうやって社会に貢献していくかという明確なビジョンを持っている生徒は少ない。 | ・将来学びたいことが明確になり、そのために今、何をすべきか判断し、行動することができる。 ☆CHARANGE NOTE等による観察で評価する | ・様々な講演会や諸活動に意図的に取り組みませ、感想や気づきを継続的に記録し、振り返りながら、自らの生き方について考えさせる。 | | | |
| キャリア教育の充実 | ①チャレンジグループ活動の計画的な実施、及び内容の充実 | 【キャリア支援】 ・講演会やボランティア体験により地域社会や職業についての理解が進み、進路意識が高まった。 ・個人研究の成果をレポートの形にまとめることができた。 ・多くの生徒が個人研究テーマと結びついた進路を選択した。 ・チャレンジグループ活動の意義を見いだせず、お座なりな取組みで終わった生徒もいた。 | ・地域社会の現状や職業に対する理解が深まり、進路意識が向上する。 ・S2の早期に個人研究テーマを定め、計画に沿って研究を深めていく。 ・研究テーマに応じた調査、情報収集の仕方を学び、レポートの形にまとめる。 ・上級学校における学びやその後の職業の選択と結びつくような取組みとする。 | ・チャレンジグループ活動ガイドをもとに年間の活動計画を把握し、スムーズな活動が行えるようにする。 ・教職員自身も情報収集に努め、研究テーマ設定について適宜アドバイスを行う。 ・過去の取組みを参考にしながらチャレンジノートを有効活用する。 ・担当する生徒の志望進路を把握し、担任と情報を共有しながら適宜アドバイスを行う。 | | | |
| | | 【S1(バイオニアホーム含む)】 ・チャレンジグループ活動に積極的に取り組みたいと考えている生徒は多い。 | ・自らの明確な意思でチャレンジグループを決定し、個人研究テーマを設定する。 ☆CHARANGE NOTE等による観察で評価する | ・チャレンジノートを有効活用し、様々な体験を積み上げていく。 | | | |
| | | 【S2(バイオニアホーム含む)】 ・春休みに決定した研究テーマに沿って計画的に探究活動を進めようとしている。 | ・探究活動をおとして、研究テーマに係る問題意識を育み、その解決に向けて現状を分析し様々な方向から対策を考える。 ☆CHARANGE NOTE等による観察で評価する | ・S3の発表、講演会、施設・企業等の現場の訪問等の機会をとらえ、積極的に取組むよう促し、研究テーマに係る探究を深め考え方を広げられるようにする。 | | | |
| | | 【S3(バイオニアホーム含む)】 ・S2時点で研究テーマを確定し、個人研究を行っている。 ・4月のスタディーサポートの結果、生徒の学習意欲、自己評価が向上している。生徒の自己肯定感を高めることに係るチャレンジグループ活動の好影響を見て取れる。 | ・チャレンジグループ活動個人研究の報告書を完成させる。 ・チャレンジグループ活動を通して、自らの進路目標を明確にし、将来、社会に貢献していく態度を身につける。 ☆CHARANGE NOTE等による観察で評価する | ・チャレンジグループ活動個人研究の報告書の内容が充実するよう適宜面談を実施するとともに、活動終了後の進路希望に合わせ、適宜個別指導を行う。 | | | |
| ②地域社会のを知り、アウトプット能力を向上させる | 【S1】 ・ボランティア活動の目的は理解しているが、自ら進んで行動していこうとする姿はまだ少ない。 | ・ボランティア活動に全員が一回は参加し、社会の中での自分のあり方を考え、社会の課題に気づき、解決策を考えようとする姿がみられる。 ☆ボランティア発表会に向けた作品づくりで評価する | ・ボランティア活動参加前の事前指導を行い、学び・気づき・課題・解決策などを記録し、ホームで発表する。 | | | | |
| | 【S2】 ・ボランティア活動に積極的に参加し、地域に貢献しようとしている。 | ・ボランティア活動をおとして地域の現状を知り、自分の在り方について考える。 ☆CHARANGE NOTE等による観察で評価する | ・ボランティア活動終了後に、感想等を記録し今後の探究活動等に活かす。 | | | | |
| | 【S3】 ・入学当初より多くの生徒が自主的にボランティア活動を行っている。 | ・ボランティア活動に参加することにより、継続的に地元の地域貢献を行っている。 ・国内の学部、学科研究を通して、各大学等の研究が各地域や国内外の社会貢献につながっていることを認識している。 ☆CHARANGE NOTE等による観察で評価する | ・継続して地元のボランティア活動に参加するように、呼びかける。 ・各大学等の学部学科における社会貢献の実態を調べ、社会的自己実現につなげていく。 | | | | |

| 評価項目 | 評価の具体項目 | 現 状 | 目標(年度末の目指す姿) | 目標達成のための方策 | 経過・達成状況 | 評価 | 改善方策 |
|---------------------|---|---|--|--|--|----|------|
| 主体的な学習姿勢の構築、及び学力の向上 | ①アクティブラーニングの視点やICTを取り入れた授業の工夫 | <p>【学習企画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアワークやグループワークで積極的に話し合ったりする場面は確実に増えているが、それが自ら深く考え表現する活動に必ずしもつながっていない現状がある。 ・iPadなどICT機器を取り入れた授業も増えてきてはいるが、効果的な活用について今後も研究を必要としている。またICTを活用する環境整備にも工夫改善が必要である。 | <ul style="list-style-type: none"> ・仲間との意見交換を通し、自分の考えを深め、それを積極的に発言する場面が増加している。 ・授業に主体的に参加するために、実のある主体的な家庭学習を行う時間が確保できている。 ・形だけの提出ではなく、実際に自分でやった提出が95%以上となっている。 ・ICT機器の授業での効果的な活用について教職員同士が普段から情報交換できている <p>★家庭学習時間の目標値</p> <p>S1:2時間以上の生徒が継続して70%以上。 S2:2時間半以上の生徒が継続して70%以上。 S3:総体後5時間以上の生徒が50%以上。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・授業研究会やアクティブラーニング研修会を実施し、WG等と連携して「主体的、対話的、深い学び」に結びつく工夫を考えていく。 ・生徒に「あれこれ考え、悩み」、それぞれが自分なりの答えに到達する設問、発問を意識した授業展開を考える。 ・授業アンケートの質問項目を、より生徒の意識を読み取れるものとなるよう工夫する。S3はアンケートを12月に実施する。 ・授業づくりのヒントとなるように、ICTを使った授業実践の動画等のデータを蓄積していく。 | | | |
| | ②学ぶことの意味を理解し、主体的に学ぶ意欲を高める | <p>【S2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力を高めたいという思いはあり、与えられた課題には積極的に取り組めるが、各自が工夫した学習にはなっていない。 <p>【S3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジグループ活動等を通して、学ぶことの意味についての理解が深まっている。 ・大学等希望する進路先と学力の乖離が大きい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・常に向上心を持ち、家庭学習を定着させ、定期考査や模試を節目に、PDCAサイクルを意識した実践をする。 <p>★評価の指標は①に同じ</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・各自が自分の学力の現状を分析し、不得意分野を克服し、得意分野を伸ばすために自分で課題を設定して取り組めるよう、面談等の機会をとらえながら丁寧に個別指導を行う。 | | | |
| | ③校外模試成績を含めた学力向上 | <p>【キャリア支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月進研、11月進研(ともに記述模試)について、全ステージで拡大ステージを開き、成績の状況や問題点の共通理解を図り、対策を講じている。 ・各模試の前に各教科で過去問を用いるなどの模試対策を行い、受験後は模試復習の指導を教科毎に行い、習慣化を図っている。 ・長期休業中の課外を全ステージで実施している。S3については放課後センター演習、2次課外も実施している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・全教員が生徒の学力を把握し、全体または個別の学習指導を適切に行うことができる。 ・模試の取組みについてもPDCAサイクルが確立されている。 <p>★S1の目標値</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月進研模試の結果に基づき実態に応じた目標値を設定する。 <p>★S2の目標値</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1月進研模試の3教科の平均偏差値が51以上。 <p>★S3の目標値</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センター試験520点以上(900点満点)の生徒が20名以上。 ・センター試験を利用した国公立現役合格者(推薦Ⅱ、AOⅡ、一般)20名以上。 | <ul style="list-style-type: none"> ・S1は7月進研模試の結果をもとに実態に応じた目標を設定する。 ・拡大ステージ会に多くの教員が参加し、その後の指導にいかす。 ・模試対策、復習を教科に任せきりにせず、各ステージでバランスのとれた指導となるようにする。 | | | |
| | | 【パイオニアホーム(Cホームの取組及び他のホームに広げることを含む)】 | <p>【S1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲は高く、課題に対して熱心に取り組む、期限を守って提出できる。 ・学習習慣と学力とのバランスが取れている生徒が多い。 <p>【S2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動や部活動と勉強との両立に努力している。 <p>【S3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校におけるパイオニアとしての自覚を持ち、主体的に学習や学校行事に取り組んでいる。 | <p>【S1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パイオニアホームとしての自覚を持ち、主体的な学習者としてステージの核となっている。 ・模試の意義を理解し、計画を立て準備、復習をすることができる。 <p>【S2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己管理を徹底し、先を見越して計画的にものごとを進め、学習面・生活面ともにステージのリーダーとして集団を引っ張っていく。 <p>【S3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校におけるパイオニアとしての自覚を持ち、主体的に学習や学校行事に取り組んでいる。また、他ホームにもその輪が広がっている。 | <p>【S1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生活の軌跡」を有効活用し、個々の生徒の取組みに対して振り返りを促し、改善を図る。 ・拡大ステージ会により生徒の状況や問題点の共通理解を図る。 ・過去問などにより模試対策を行う。 <p>【S2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自が目指す姿を設定し、パイオニアホーム独自の見学や体験をとおして視野を広げ、自分を高めるための具体的な工夫をする。 <p>【S3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活躍している生徒の紹介を行い、生徒を積極的にほめる。 | | |
| 情報収集、情報発信の充実 | <p>【総務】</p> <p><ホームページの運用></p> <ul style="list-style-type: none"> ・更新件数は増加しているが、更新する者が特定教職員に偏っている。(更新件数:平成28年度160件→平成29年度194件) ・アクセス数は増加している。(平成28年度約204,500件→平成29年度約297,400件) <p><季刊倉西・倉吉西高通信の刊行></p> <ul style="list-style-type: none"> ・時期をずらして、それぞれ年4回ずつ刊行している。 <p><ミッタシステムの運用></p> <ul style="list-style-type: none"> ・S2・3生保護者の登録率は92%。(未登録者に登録依頼したことで、登録者数が増加した) <p><中学生体験入学・中学校での高校説明会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験入学では、2日間で370名以上が参加し、「参考になった」の回答が99%以上であった。 | <p><ホームページの運用></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の活動や必要な情報が適宜、掲載され、見やすく、わかりやすい画面になっている。 ・担当した行事、部活動の様子を教職員が速やかに掲載する。 <p>★ホームページ更新件数の目標値</p> <ul style="list-style-type: none"> ・230件(前年度2割増) <p><季刊倉西・倉吉西高通信の刊行></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者に学校並びにPTAの活動や方針等を適宜、伝える。 <p><ミッタシステムの運用></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全保護者が登録し、漏れなく緊急連絡を行うことができる。 <p><中学生体験入学・中学校での説明会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生や保護者が倉吉西高の情報を持っている。 <p>★中学生体験入学の目標値</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者の満足度が90%以上。 | <p><ホームページの運用></p> <ul style="list-style-type: none"> ・項目の見直し・修正を可能な範囲で行う。 ・学校行事・部活動の大会等の機会をとらえ、適宜、担当教職員・部活動顧問への掲示呼びかけを行う。 <p><季刊倉西・倉吉西高通信の刊行></p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間計画を立て、『季刊倉西』では学校から保護者宛のメッセージを、『倉吉西高通信』ではPTA活動の紹介と参加呼びかけを主とした紙面とする。 <p><ミッタシステムの運用></p> <ul style="list-style-type: none"> ・未登録の保護者への登録呼びかけを行う(4月・7月・12月の3回)。 <p><中学生体験入学・中学校での説明会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・映像等を用い、倉吉西高の取組みを分かりやすく伝えるよう代表生徒を指導する。 ・体験入学は保護者にも参加を呼びかける。 | | | | |